

モモ「白皇」は花粉源としても活用できる

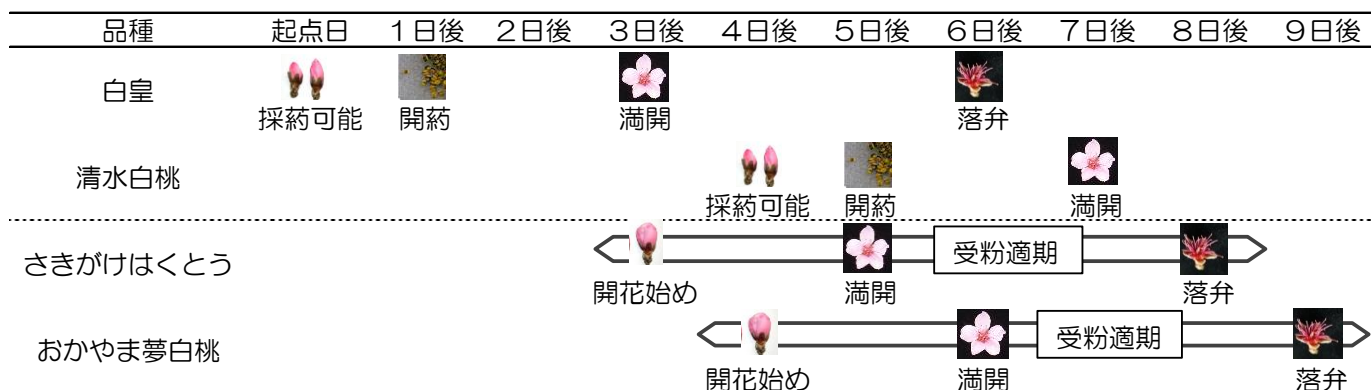


図1 「白皇」及び「清水白桃」ならびに無花粉品種「さきがけはくとう」及び「おかやま夢白桃」の開花前後の生育と人工受粉の作業イメージの概念図

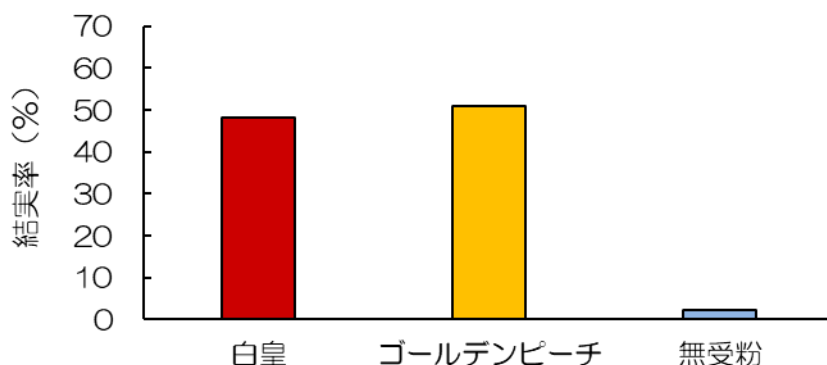


図2 人工受粉の花粉源品種の違いが「さきがけはくとう」の結実率に及ぼす影響

開発のねらい

モモ新品種「白皇」は、糖度が高く食味が良い、日持ち性が良いなど優れた果実特性の他に、開花が早い特徴を持っています。そこで、開花が早く花粉のない「おかやま夢白桃」などの品種の人工受粉用の花粉源としての有効性を明らかにしました。

新技術の概要

- 「白皇」は、花粉の採取効率が良くとされる「ゴールデンピーチ」よりも満開日が3日早く、無花粉品種の「さきがけはくとう」、「おかやま夢白桃」よりも2～3日早く咲きます（図1）。
- 「白皇」の採葯適期は、「おかやま夢白桃」の人工受粉の適期である開花始めよりも早いため、当年の花粉を、開花の早い無花粉品種の人工受粉に使えます。
- 「白皇」と「ゴールデンピーチ」の花粉を「さきがけはくとう」に人工受粉したところ、両品種ともに、十分な結実が認められました（図2）。

活用場面

「白皇」などの晩生品種の導入は、労働分散にもつながります。花粉のない品種も栽培体系に取り入れやすくなるため、市場に高品質な「岡山白桃」を届けられることから、市場における評価がさらに高まります。